



みんなの「なんな一?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)



信 毎 こ ど も 記 者 ニ ュ ー ス

発行/信毎こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657 TEL.026-236-3110 FAX.026-236-3193

no.22

信毎こども記者クラブの今年のテーマ「たんけん 信濃の国」にちなんで、取材教室「シナノのルーツをさぐる」を3月6日、長野県立歴史館で開催しました。20人のこども記者はグルー

プごとに、いまよりずっと昔の三つの時代、「縄文時代」「古墳時代」「奈良時代」のころの「シナノ」を探るミッションに挑戦! いまの「信濃」とはちがう「シナノ」の様子に「へえー」「すごい!」「なんで?」の連続でした。こども記者のおどろきに満ちた調査結果を報告します。

たんけん「信濃の国」



◎3月13日付 こども新聞でもこども記者が伝えているよ!

“シナノ”のルーツを探れ!

こども記者にかせられた3つのミッション!

- ① 縄文時代の“シナノ”を探れ!
“シナノ”にいっぱい! 縄文文化
—歴史館のうらがわを探検せよ
- ② 古墳時代の“シナノ”を探れ!
“シナノ”の里ってどんなだった?
—森將軍塚から眺めよう
- ③ 奈良時代の“シナノ”を探れ!
科野って、信濃と関係あるの?
—木簡を観察して作ってみよう

大きな展示物などを運ぶための巨大エレベーター。1クラス全員が乗っても大丈夫!



さあ、みんなの知らないシナノ探検に出发だあ!



常設展示室入り口では、動く等身大マンモスがお待ち!

こども記者の調査結果 ミッション② 古墳時代の“シナノ”



湿気を防ぐため床を高くした倉庫

松本優雅記者

一人のための大きなお墓

こども記者の調査結果 ミッション① 縄文時代の“シナノ”



縄文人が住んでいた 竪穴住居(復元したもの)

佐藤志保奈記者

縄文人はキジの肉を食べていた!

一のおほかのこを石しつとい... 宝などがうめられていました。でも、宝はどろぼうにほとんどぬすまれてしまいました。そのどろぼう

うはつかまらなかつたぞうです。一番上のおほかは長さが7メートル60センチ、はばは2メートル30センチです。なんでこんな大きなおほかは、たった一人しかうめなかつたのかな? すごくえらい人だつたのかな?と思いました。



復元された森將軍塚古墳の石室は日本最大級の大きさ



古墳の上からは善光寺平が見渡せるよ

家の中にはいろんな食べ物がつり下げられていたよ



じょうもん人は、今はあまり食べないきじの肉を食べていた。家は思つてたより古くてびつくりした。今のじだいの家の方がとてもいいと思つた。

本物の縄文土器に触つたよ



じょうもん人の家は、木と草でできていた。じょうもん人は6~7人でくらしていたと考えられている。中には、どうぶつのかわ、弓矢などいろいろなものがおいてあつた。虫もいっぱいいた。



土器とまきを使って、木の束などを支柱さしてつんだよ

先生が教えてくれ、いろいろなことがわかつた。むかしの家は夏はあつくて、冬はさむい。少し風が入つてきて、スーとしていたのかもしれない。わたしが入つた時はあつた。